

「事業名：広野町における未利用資源の探索と資源化 みかんプロジェクト」 2020年度事業の概要

福島高専 連携市町村：広野町

現地拠点：双葉郡広野町下北迫大谷地原65-3 ニツ沼公園パークギャラリー内 福島高専 地域復興支援室広野オフィス

事業のポイント

- ・広野小学校で放課後理科教室を開催し、小学生に微生物や化学のおもしろさを実験や実習で確かめる教育活動であること。
- ・温暖な広野町のシンボル「みかん」や新しく生産が始まるバナナやマンゴーを試料に有用微生物の探索に取り組んでいること。
- ・広野町産の米粉と町由来の酵母で米粉パン作りなど、発見した新株酵母の有用微生物(酵母)の産業利用を試みていること。
- ・地中熱の利用可能性評価など広野町の熱帯植物生産の持続可能性の向上、省エネルギー技術の利用を検討していること。
- ・広野町で生産されるバナナとパパイヤなどに鮮度保持技術を応用しようとしていること。
- ・農産廃棄物の棄物の資源化などSDGsに対応した生産活動の支援に取り組んでいるところ。

2020年度の活動内容

- ・微生物について学ぶ小学生と有用微生物の探索活動を行う。
- ・微生物調査を中学校、高校のクラブ活動として可能性を探る。
- ・広野由来の新株酵母菌の産業利用について企業に協力を求める。
- ・有用微生物の探索技術の改良を進め、効率的な培養と解析技術の向上を図る。
- ・町内から微生物資源となる植物などの提供を小学生の保護者などへ呼びかける。
- ・地中熱の利用可能性評価など熱帯植物園の運営の持続可能性を高めるよう協力する。
- ・開発したエチレン吸着材を熱帯植物園の生產品の鮮度保持に利用し、性能評価を行う。
- ・農産廃棄物、植物系廃棄物、畜産廃棄物などの資源化モデルのシミュレーションを行う。

取り組みによって得られる成果

- ・科学や技術、産業活動に対する理解醸成
- ・広野町由来の有用微生物の応用と社会実装
- ・広野町産のバナナなどの品質向上、SDGs対応化



広野町固有の酵母菌
(新株として登録した)



放課後理科教室(広野小)
命名した酵母菌の観察